



2016年12月期 中間決算概況

2016年8月5日

会社名 サントリーホールディングス株式会社 URL <http://www.suntory.co.jp>
 代表者 (役職名)代表取締役社長 (氏名)新浪 剛史
 問合せ先責任者 (役職名)広報部長 (氏名)丹羽 徹 広報部 TEL (03)5579-1150
 TEL (06)6346-0835

(百万円未満切捨て)

1. 2016年6月中間期の連結業績(2016年1月1日～2016年6月30日)

(1)連結経営成績 (%表示は、対前年中間期増減率)

| | 売上高 | | 営業利益 | | 経常利益 | | 親会社株主に帰属する 中間純利益 | |
|------------|-----------|------|--------|------|--------|------|---------------------|-------|
| | 百万円 | % | 百万円 | % | 百万円 | % | 百万円 | % |
| 2016年6月中間期 | 1,273,069 | 3.0 | 87,277 | 14.0 | 75,647 | 14.2 | 35,633 | 129.5 |
| 2015年6月中間期 | 1,236,336 | 11.5 | 76,527 | 18.8 | 66,238 | 6.0 | 15,529 | △ 9.7 |

(参考) のれん等償却前利益

| | 営業利益 | | 経常利益 | | 親会社株主に帰属する 中間純利益 | |
|------------|---------|------|---------|------|---------------------|------|
| | 百万円 | % | 百万円 | % | 百万円 | % |
| 2016年6月中間期 | 121,387 | 10.3 | 109,758 | 10.0 | 63,476 | 44.4 |
| 2015年6月中間期 | 110,049 | 31.4 | 99,759 | 21.9 | 43,943 | 40.2 |

(注) のれん等償却前利益 = 利益 + M&Aにより発生するのれん、商標権等償却費

| | 1株当たり 中間純利益 | | 潜在株式調整後 1株当たり中間純利益 | |
|------------|----------------|----|-----------------------|---|
| | 円 | 銭 | 円 | 銭 |
| 2016年6月中間期 | 52 | 11 | - | - |
| 2015年6月中間期 | 22 | 73 | - | - |

(2)連結財政状態

| | 総資産 | 純資産 | 自己資本比率 |
|------------|-----------|-----------|--------|
| | 百万円 | 百万円 | % |
| 2016年6月中間期 | 4,133,767 | 941,882 | 16.6 |
| 2015年12月期 | 4,606,990 | 1,162,629 | 18.6 |

(参考) 自己資本 2016年6月中間期 685,103 百万円 2015年12月期 857,673 百万円

(3)連結キャッシュ・フローの状況

| | 営業活動による キャッシュ・フロー | 投資活動による キャッシュ・フロー | 財務活動による キャッシュ・フロー | 現金及び現金同等物 中間期末残高 |
|------------|----------------------|----------------------|----------------------|---------------------|
| | 百万円 | 百万円 | 百万円 | 百万円 |
| 2016年6月中間期 | 75,569 | △ 11,994 | 39,793 | 344,735 |
| 2015年6月中間期 | 85,307 | △ 44,931 | △ 10,558 | 227,724 |

2. 2016年12月期の連結業績予想(2016年1月1日～2016年12月31日)

(%表示は、対前期増減率)

| 通 期 | 売上高 | | 営業利益 | | 経常利益 | | 親会社株主に 帰属する当期純 利益 | | 1株当たり 当期純利益 | |
|-----|-----------|-----|---------|-----|---------|-----|-------------------------|------|----------------|----|
| | 百万円 | % | 百万円 | % | 百万円 | % | 百万円 | % | 円 | 銭 |
| | 2,730,000 | 1.6 | 188,000 | 1.6 | 160,000 | 2.4 | 50,000 | 10.5 | 73 | 15 |

(注)直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

(参考)

のれん等償却前利益

| | | | | | |
|---------|-----|---------|-----|---------|-----|
| 258,000 | 1.2 | 230,000 | 1.8 | 108,000 | 4.4 |
|---------|-----|---------|-----|---------|-----|

経営成績

1. 当中間連結累計期間の概況

当期(2016年1月1日～2016年6月30日)の世界経済は、一部に弱さがみられたものの、全体として緩やかに回復しました。わが国経済においては、緩やかな回復基調が続きましたが、一部、個人消費や企業収益などに弱さもみられました。

こうした中、サントリーグループは、〈飲料・食品〉〈酒類〉〈その他〉の各セグメントにおいて国内外で積極的な事業展開を行いました。当期の業績は、売上高1兆2,731億円(前年同期比103.0%)、営業利益873億円(同114.0%)、経常利益756億円(同114.2%)、親会社株主に帰属する中間純利益356億円(同229.5%)となりました。

なお、平成28年(2016年)熊本地震発生による特別損失101億円を計上しています。

グローバルスタンダードにならぬ、のれん等償却費を除いて計算すると、営業利益1,214億円(前年同期比110.3%)、経常利益1,098億円(同110.0%)、親会社株主に帰属する中間純利益635億円(同144.4%)となりました。

〈飲料・食品セグメント〉

サントリー食品インターナショナル(株)は、ブランド強化や新規需要の創造に注力したほか、同社グループ各社の知見を活かしたコスト革新による収益力強化や品質の向上に取り組みました。

国内事業では、重点ブランドの強化に加え、特定保健用食品等の高付加価値商品への注力を通じ、新規需要の創造に取り組み、前年同期を上回る販売数量を達成しました。

「サントリー天然水」は、「清冽でおいしい水」「ナチュラル&ヘルシー」をブランド独自の価値として訴求しました。なかでも「サントリー ヨーグリーナ&南アルプスの天然水」が好調に推移し、ブランド全体の販売数量が大幅に伸長しました。

「BOSS」は、引き続き主力商品に注力したことに加え、ボトル缶コーヒー「プレミアムボス ブラック」「同 微糖」が大幅に販売数量を伸ばし、ブランド全体の伸びを牽引しました。また、6月にはカフェインレスの「ボス デカフェブラック」を新発売し、コーヒーの飲用シーン拡大を図りました。

「伊右衛門」は、四季の変化に合わせて味わいを変える提案を継続したほか、特定保健用食品「特茶」が大幅に販売数量を伸ばし、ブランド全体の販売数量は堅調に推移しました。

特定保健用食品は、同社が市場拡大を牽引し、確固たる地位を築いています。引き続き、「伊右衛門特茶」「サントリー 黒烏龍茶」などの積極的なマーケティングに取り組み、特定保健用食品合計の販売数量は、前年同期を大きく上回りました。

また、自動販売機事業、ファウンテン事業およびウォーター事業において、さらに高い付加価値をお客様に提供するため、サントリービバレッジソリューション(株)が4月に事業を開始しました。サントリーフーズ(株)とともに、それぞれの顧客対応力・販売力の強化に取り組みました。

国際事業では、各エリアにおいて重点ブランドの一層の強化やコスト削減等を実施しました。

欧州では、「Orangina」^{オランジーナ}「Oasis」^{オアシス}「Schweppes」^{シュウェップス}「Lucozade」^{ルコゼード}「Ribena」^{ライビーナ}などの主カブランドを中心に積極的なマーケティング活動を展開しました。フランスでは、事業環境が厳しい中、「Orangina」^{オランジーナ}「Oasis」^{オアシス}の販売数量は前年同期を下回りました。英国では、ブランドの活性化に取り組んだ「Lucozade」^{ルコゼード}の販売数量が堅調に推移し、「Ribena」^{ライビーナ}の販売数量も前年同期を上回りました。スペインでは、昨年開始したPepsiCo, Inc.との協業をさらに推進し、業務用の販売が引き続き好調に推移しました。また、英国で昨年12月に取り扱いを開始したポトルドウォーター^{ハイランド スプリング}「Highland Spring」^{ハイランド スプリング}に続き、フランスでフレーバーティー^{メイ ティー}「May Tea」^{メイ ティー}を5月に新発売するなど、欧州全体でブランドポートフォリオを強化しました。

アジアでは、各国において事業基盤の強化や主カブランドを中心としたマーケティング活動に取り組みました。健康食品事業では、タイにおいて「BRAND'S Essence of Chicken」^{ブランドズ エッセンス オブ チキン}などの販売が堅調に推移しました。飲料事業では、ベトナムにおいて、4月に緑茶飲料の「TEA + MATCHA」^{ティープラス マッチャ}を新発売するなどサントリーブランドのマーケティング強化に取り組み、ペプシコブランドとともに好調に推移しました。

オセアニアでは、主カブランド^{ヴィ}「V」^{ヴィ}の活性化に取り組んだほか、サントリーブランド^{オヴィ}「OVI」^{オヴィ}で積極的なマーケティング活動を行い、販売拡大に取り組みました。

米州では、ノースカロライナ州を中心にペプシコブランドのさらなる販売強化に加え、営業および物流の事業効率の改善を進めました。また、サントリーブランド「OVI」の販売を1月に開始しました。

これらの結果、飲料・食品セグメントの売上高は、6,745億円(前年同期比109.1%)、営業利益492億円(同105.4%)となりました。

〈酒類セグメント〉

ビームサントリー社は、為替や事業売却などの影響を除いた既存事業ベースの売上高が前年同期比一桁台半ば増となりました。「ジムビーム」^{ジムビーム}「メーカーズマーク」^{メーカーズマーク}「ティーチャーズ」^{ティーチャーズ}「クルボアジェ」^{クルボアジェ}「オルニートス」^{オルニートス}などが好調に推移しました。また、「響」^響「ジムビーム ブラック」^{ジムビーム ブラック}「ノブクリーク」^{ノブクリーク}などのプレミアムウイスキーが、世界的な酒類コンテストで栄誉ある賞を受賞しました。なお、当期決算においては、為替や事業売却などの影響を受け売上高は前年同期を下回りました。

北米・中南米地域は、既存事業ベースで前年同期を上回る売上となりました。なかでも米国は、前年同期比一桁台半ばの成長となりました。米国では、「ジムビーム」^{ジムビーム}「メーカーズマーク」^{メーカーズマーク}「クルボアジェ」^{クルボアジェ}「サウザ」^{サウザ}などが伸長したほか、価値訴求提案や料飲店様におけるマーケティング活動の強化により、プレミアムウイスキーなども伸長しました。また、「ジムビーム」ブランドは「ジムビームアップル」^{ジムビームアップル}などのラインナップ拡充によるバーボンの多彩な味わいの提案が奏功し、伸長しました。

その他地域(北米・中南米地域、日本以外)では、既存事業ベースで欧州、ロシア、オーストラリア、インド、東南アジアなどが好調に推移しました。特に「カナディアンクラブ」^{カナディアンクラブ}「クルボアジェ」^{クルボアジェ}「メーカーズマーク」^{メーカーズマーク}が伸長しました。また「ティーチャーズ」^{ティーチャーズ}がインドで伸長しました。

日本では、サントリースピリッツ(株)が前年同期比103%の売上となりました。ウイスキーでは、「ジムビーム」が“ジムビーム ハイボール”を中心とした積極的なマーケティング活動を行い前年同期比149%と大きく伸長しました。RTDは、前年同期比114%と好調に推移しました。「-196°C ストロングゼロ」は、引き続き食中酒としての需要が拡大し、前年同期比116%と大幅に伸長しました。「ほろよい」は、その味わいとコミュニケーション活動が好評で前年同期比123%と好調に推移しました。また、「角ハイボール缶」「トリスハイボール缶」が引き続き好調に推移し、ハイボール缶計で前年同期比131%となりました。

サントリービール(株)は、総市場^{※1}が前年同期比99%程度と推定される中、3,314万ケース^{※2}(同101%)と、過去最高の販売数量を達成しました。同社ビール類^{※3}のシェアは、16.0%(課税数量ベース)で過去最高となりました。

「ザ・プレミアム・モルツ」は、日本のビール市場に“エールビール”の魅力为新提案する「ザ・プレミアム・モルツ〈香るエール〉」を発売するとともに、全国17都市で体験イベント「ザ・プレミアム・モルツ フェスティバル」を実施するなど、積極的なマーケティング活動を展開しました。「ザ・モルツ」は、中味・パッケージをリファインし、同商品が持つ価値である‘UMAMI’の訴求を強化しました。「金麦」ブランドは、「金麦」が前年同期比105%、「金麦〈糖質75%^{※4}オフ〉」が同111%と好調に推移しました。

No.1^{※5}ノンアルコールビールテイスト飲料「オールフリー」は、中味・パッケージのリニューアルやWEBを活用したキャンペーンなど積極的なマーケティング活動により、ユーザーの拡大に取り組みました。

※1 ノンアルコールビールテイスト飲料を含む

※2 大瓶換算(1ケース=633ml×20本)

※3 ノンアルコールビールテイスト飲料を除く

※4 当社「金麦」比

※5 インタージSRI調べ 15年1月~15年12月(全国SM/CVS/酒DS/一般・業務用酒店計)

サントリーワインインターナショナル(株)は、為替の影響を受け、売上高が微減となりました。なお、為替影響を除いた場合は前年同期比102%の売上となりました。国産ぶどう100%ワイン“日本ワイン”は、料飲店様においてグラスでの販売を訴求するなどお客様との接点拡大を図った結果、販売数量が前年同期比121%と大きく伸長しました。「サントリー登美の丘ワイナリー 登美白 2013」は、国際ワインコンクールで「金賞」を受賞し、同社“日本ワイン”の金賞受賞は5年連続となりました。また、「カーニヴォ」「エル グリル」など“特定の料理や食材に合うワイン”がご好評いただいたほか、中高価格帯の輸入ワインも伸長しました。

これらの結果、酒類セグメントの売上高は、4,661億円(前年同期比98.1%)、営業利益395億円(同124.1%)となりました。

〈その他セグメント〉

サントリーウエルネス(株)は「セサミン」シリーズやスキンケア化粧品「F.A.G.E.(エファージュ)」などが好調で前年同期比113%の売上となりました。ハーゲンダッツ ジャパン(株)は新商品などが好調に推移しました。(株)ダイナックなどの外食事業も堅調に推移しました。また、サントリー(中国)ホールディングス有限公司が今年3月に青島啤酒股份有限公司との合弁契約を解消したことなどから、その他セグメントの売上高は1,325億円(前年同期比92.4%)、営業利益は162億円(同108.1%)となりました。

なお、国内売上高は8,252億円(前年同期比111.4%)、海外売上高は4,479億円(同90.4%)となりました。海外売上高は、為替の影響を除くと前年同期比99.7%となります。

売上の海外比率は35.2%、のれん等償却前営業利益の海外比率は51.2%となりました。

当社は、創業以来、積極的に事業を展開するとともに、創業の精神である『利益三分主義』に基づき、文化・社会貢献、環境活動などにも取り組んでいます。また、『水と生きる SUNTORY』というコーポレートメッセージのもと、社会と自然との共生を目指したさまざまな活動を展開しています。

東日本大震災の復興支援活動は、震災以降累計108億円の規模で、「漁業の復興支援」「未来を担う子どもたちの支援」「チャレンジド・スポーツ(障がい者スポーツ)支援」「文化・スポーツを通じた支援」を柱に継続して実施しています。また、昨年7月に一般社団法人 日本車椅子バスケットボール連盟とオフィシャルパートナー契約を締結し、日本の車椅子バスケットボールを応援しています。

なお、平成28年(2016年)熊本地震発生に際し、救援物資を供出したほか、5月に義捐金1億円を拠出しました。

環境活動では、水源涵養活動を展開している「サントリー 天然水の森」において引き続き積極的な活動を展開、これまでに約8,000haの面積を涵養しています。2020年までに国内工場で使用する地下水量の2倍の水を育む面積を目指していきます。子どもたちに水の大切さを伝える次世代環境教育「水育」^{みずいく}は、国内での活動に加え、今年で2年目となるベトナムでは新たにホーチミン市などでも実施しています。また、容器包装の軽量化や生産工程での節水・省エネルギー活動も推進しました。植物由来原料100%使用ペットボトルの開発に米国企業と共同で取り組んでおり、1月には実証プラントの建設を開始しました。

2.通期の見通し

2016年12月期の売上高は、2兆7,300億円(前年同期比101.6%)、営業利益1,880億円(同101.6%)、経常利益1,600億円(同102.4%)、親会社株主に帰属する当期純利益500億円(同110.5%)を予定しています。

なお、のれん等償却前利益は、営業利益2,580億円(前年同期比101.2%)、経常利益2,300億円(同101.8%)、親会社株主に帰属する当期純利益1,080億円(同104.4%)となります。

(2016年2月15日発表の業績予想から変更はありません。)

中間連結貸借対照表

(単位:百万円)

| 期 別 科 目 | 前連結会計年度 (2015年12月31日現在) | 当中間連結会計期間 (2016年6月30日現在) | 増 減 |
|-------------|----------------------------|-----------------------------|----------|
| | 金 額 | 金 額 | 金 額 |
| (資 産 の 部) | | | |
| I 流動資産 | 1,205,761 | 1,233,429 | 27,667 |
| 現金及び預金 | 258,622 | 345,366 | 86,744 |
| 受取手形及び売掛金 | 380,562 | 344,771 | △35,791 |
| たな卸資産 | 438,927 | 411,708 | △27,218 |
| その他 | 129,758 | 132,939 | 3,180 |
| 貸倒引当金 | △2,109 | △1,357 | 751 |
| II 固定資産 | 3,400,453 | 2,899,702 | △500,751 |
| 1.有形固定資産 | 686,068 | 597,323 | △88,745 |
| 建物及び構築物 | 198,016 | 167,302 | △30,713 |
| 機械装置及び運搬具 | 255,743 | 215,991 | △39,751 |
| 工具、器具及び備品 | 63,223 | 60,310 | △2,912 |
| 土地 | 106,203 | 96,815 | △9,387 |
| その他 | 62,881 | 56,902 | △5,978 |
| 2.無形固定資産 | 2,512,908 | 2,107,791 | △405,116 |
| のれん | 1,136,879 | 959,808 | △177,070 |
| 商標権 | 1,285,478 | 1,070,076 | △215,401 |
| その他 | 90,550 | 77,906 | △12,644 |
| 3.投資その他の資産 | 201,477 | 194,587 | △6,889 |
| 投資有価証券 | 119,633 | 106,142 | △13,490 |
| その他 | 83,153 | 89,670 | 6,517 |
| 貸倒引当金 | △1,309 | △1,225 | 84 |
| III 繰延資産 | 774 | 636 | △138 |
| 資産合計 | 4,606,990 | 4,133,767 | △473,222 |

(単位:百万円)

| 期 別 科 目 | 前連結会計年度 (2015年12月31日現在) | 当中間連結会計期間 (2016年6月30日現在) | 増 減 |
|----------------|----------------------------|-----------------------------|----------|
| | 金 額 | 金 額 | 金 額 |
| (負 債 の 部) | | | |
| I 流動負債 | 934,627 | 936,862 | 2,234 |
| 支払手形及び買掛金 | 146,790 | 138,128 | △8,661 |
| 電子記録債務 | 109,333 | 118,306 | 8,973 |
| 短期借入金 | 161,664 | 248,709 | 87,044 |
| 1年内償還予定の社債 | 51,918 | 33,498 | △18,420 |
| 未払酒税 | 55,064 | 33,631 | △21,432 |
| 未払消費税等 | 22,349 | 14,746 | △7,602 |
| 未払法人税等 | 36,629 | 20,996 | △15,632 |
| 未払金 | 157,615 | 131,042 | △26,573 |
| 未払費用 | 83,008 | 87,668 | 4,660 |
| 賞与引当金 | 26,149 | 18,306 | △7,842 |
| その他 | 84,104 | 91,827 | 7,722 |
| II 固定負債 | 2,509,733 | 2,255,022 | △254,710 |
| 社債 | 421,883 | 387,436 | △34,447 |
| 長期借入金 | 1,427,812 | 1,325,052 | △102,760 |
| 繰延税金負債 | 471,066 | 404,084 | △66,981 |
| 役員退職慰労引当金 | 1,004 | 868 | △136 |
| 退職給付に係る負債 | 33,926 | 31,262 | △2,664 |
| その他 | 154,039 | 106,319 | △47,720 |
| 負債合計 | 3,444,361 | 3,191,885 | △252,475 |
| (純 資 産 の 部) | | | |
| I 株主資本 | 790,288 | 813,484 | 23,195 |
| 資本金 | 70,000 | 70,000 | — |
| 資本剰余金 | △20,780 | 137,965 | 158,746 |
| 利益剰余金 | 743,354 | 607,803 | △135,551 |
| 自己株式 | △2,285 | △2,285 | — |
| II その他の包括利益累計額 | 67,384 | △128,380 | △195,764 |
| その他有価証券評価差額金 | 26,427 | 20,908 | △5,518 |
| 繰延ヘッジ損益 | △3,803 | △10,633 | △6,830 |
| 為替換算調整勘定 | 53,256 | △130,660 | △183,917 |
| 退職給付に係る調整累計額 | △8,496 | △7,994 | 501 |
| III 非支配株主持分 | 304,956 | 256,778 | △48,177 |
| 純資産合計 | 1,162,629 | 941,882 | △220,746 |
| 負債純資産合計 | 4,606,990 | 4,133,767 | △473,222 |

中間連結損益計算書

(単位:百万円)

| 期 別 科 目 | 前中間連結会計期間 〔 自 2015年 1月 1日 至 2015年 6月30日 〕 | 当中間連結会計期間 〔 自 2016年 1月 1日 至 2016年 6月30日 〕 | 増 減 |
|-------------------------------|---|---|--------|
| | 金 額 | 金 額 | 金 額 |
| I 売 上 高 | 1,236,336 | 1,273,069 | 36,732 |
| II 売 上 原 価 | 614,354 | 605,134 | △9,219 |
| 売 上 総 利 益 | 621,982 | 667,934 | 45,952 |
| III 販 売 費 及 び 一 般 管 理 費 | 545,455 | 580,657 | 35,202 |
| 営 業 利 益 | 76,527 | 87,277 | 10,749 |
| IV 営 業 外 収 益 | 6,245 | 5,109 | △1,135 |
| 受 取 利 息 | 443 | 536 | 93 |
| 受 取 配 当 金 | 688 | 606 | △81 |
| 持 分 法 に よ る 投 資 利 益 | 1,167 | 2,197 | 1,029 |
| 為 替 差 益 | 744 | — | △744 |
| 雑 収 入 | 3,201 | 1,768 | △1,433 |
| V 営 業 外 費 用 | 16,534 | 16,738 | 204 |
| 支 払 利 息 | 14,390 | 14,070 | △320 |
| 雑 支 出 | 2,143 | 2,668 | 525 |
| 経 常 利 益 | 66,238 | 75,647 | 9,409 |
| VI 特 別 利 益 | 3,259 | 17,666 | 14,407 |
| 固 定 資 産 売 却 益 | 891 | 2,031 | 1,139 |
| 関 係 会 社 株 式 売 却 益 | 2,332 | 4,500 | 2,168 |
| 事 業 譲 渡 益 | — | 8,306 | 8,306 |
| 債 務 戻 入 益 | — | 2,684 | 2,684 |
| そ の 他 | 35 | 143 | 108 |
| VII 特 別 損 失 | 8,266 | 16,058 | 7,792 |
| 固 定 資 産 廃 棄 損 | 1,541 | 1,944 | 403 |
| 組 織 再 編 関 連 費 用 | 3,853 | 2,681 | △1,171 |
| 震 災 関 連 費 用 | — | 10,133 | 10,133 |
| そ の 他 | 2,871 | 1,298 | △1,572 |
| 税 金 等 調 整 前 中 間 純 利 益 | 61,231 | 77,255 | 16,023 |
| 法 人 税 、 住 民 税 及 び 事 業 税 | 35,180 | 33,008 | △2,172 |
| 法 人 税 等 調 整 額 | △1,329 | △4,229 | △2,900 |
| 中 間 純 利 益 | 27,380 | 48,476 | 21,096 |
| 非 支 配 株 主 に 帰 属 す る 中 間 純 利 益 | 11,850 | 12,842 | 991 |
| 親 会 社 株 主 に 帰 属 す る 中 間 純 利 益 | 15,529 | 35,633 | 20,104 |

中間連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

| 科目 | 期別 | 前中間連結会計期間 〔 自 2015年 1月 1日 至 2015年 6月 30日 〕 | 当中間連結会計期間 〔 自 2016年 1月 1日 至 2016年 6月 30日 〕 |
|----------------------------------|----|--|--|
| | | 金額 | 金額 |
| I 営業活動によるキャッシュ・フロー | | | |
| 税金等調整前中間純利益 | | 61,231 | 77,255 |
| 減価償却費 | | 43,392 | 45,751 |
| のれん償却額 | | 31,164 | 31,547 |
| 受取利息及び受取配当金 | | △1,131 | △1,143 |
| 支払利息 | | 14,390 | 14,070 |
| 持分法による投資損益(△は益) | | △1,167 | △2,197 |
| 関係会社株式売却損益(△は益) | | △2,332 | △4,500 |
| 事業譲渡損益(△は益) | | — | △8,306 |
| 固定資産廃棄損 | | 1,541 | 1,944 |
| 売上債権の増減額(△は増加) | | △20,066 | 130 |
| たな卸資産の増減額(△は増加) | | △26,692 | △27,028 |
| 仕入債務の増減額(△は減少) | | 28,127 | 18,130 |
| 未払酒税及び未払消費税等の増減額(△は減少) | | △17,141 | △25,550 |
| その他 | | 22,255 | 17,947 |
| 小計 | | 133,572 | 138,051 |
| 利息及び配当金の受取額 | | 1,158 | 2,438 |
| 利息の支払額 | | △15,664 | △15,747 |
| 法人税等の支払額 | | △33,759 | △49,172 |
| 営業活動によるキャッシュ・フロー | | 85,307 | 75,569 |
| II 投資活動によるキャッシュ・フロー | | | |
| 有形及び無形固定資産の取得による支出 | | △50,941 | △51,804 |
| 有形及び無形固定資産の売却による収入 | | 3,735 | 4,382 |
| 投資有価証券の取得による支出 | | △393 | △968 |
| 連結の範囲の変更を伴う子会社株式の売却による収入 | | 2,816 | 6,872 |
| 事業譲渡による収入 | | — | 25,832 |
| その他 | | △149 | 3,691 |
| 投資活動によるキャッシュ・フロー | | △44,931 | △11,994 |
| III 財務活動によるキャッシュ・フロー | | | |
| 短期借入金及びコマーシャル・ペーパーの増減額 (△は減少) | | 30,732 | 50,621 |
| 長期借入れによる収入 | | 5,004 | 86,091 |
| 長期借入金の返済による支出 | | △28,398 | △57,356 |
| 社債の発行による収入 | | — | 50,000 |
| 社債の償還による支出 | | △900 | △67,492 |
| リース債務の返済による支出 | | △1,050 | △4,856 |
| 配当金の支払額 | | △8,199 | △8,205 |
| 非支配株主への配当金の支払額 | | △7,774 | △8,198 |
| その他 | | 27 | △810 |
| 財務活動によるキャッシュ・フロー | | △10,558 | 39,793 |
| IV 現金及び現金同等物に係る換算差額 | | △1,401 | △16,622 |
| V 現金及び現金同等物の増減額(△は減少) | | 28,416 | 86,745 |
| VI 現金及び現金同等物の期首残高 | | 199,308 | 257,990 |
| VII 現金及び現金同等物の中間期末残高 | | 227,724 | 344,735 |

セグメント情報

1. 報告セグメントの概要

当社の報告セグメントは、当社の構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、経営陣が、経営資源の配分の決定及び業績を評価するために定期的に検討を行う対象となっているものです。

当社は持株会社制を導入し、持株会社である当社の下、製品・サービス別の事業分野別に事業会社等を設置しています。各事業会社等は取り扱う製品・サービスについて国内及び海外の包括的な戦略を立案し、事業活動を展開しています。

したがって、当社グループは事業会社等を中心とした製品・サービス別のセグメントから構成され、「飲料・食品事業」、「酒類事業」の2つを報告セグメントとしています。

各報告セグメントと「その他」の区分に属する主な製品・サービスの種類は以下のとおりです。

飲料・食品……………清涼飲料、健康飲料、加工食品 他
 酒類……………スピリッツ、ビール類、ワイン 他
 その他……………中国事業、健康食品、アイスクリーム、外食、花 他

2. 報告セグメントごとの売上高及び利益の金額に関する情報

前中間連結会計期間(自 2015年1月1日 至 2015年6月30日)

(単位:百万円)

| | 飲料・食品 | 酒類 | その他 | 計 | 調整額(注)1 | 中間連結損益 計算書計上額 (注)2 |
|-----------------------|---------|---------|---------|-----------|----------|--------------------------|
| 売上高 | | | | | | |
| 外部顧客への売上高 | 618,044 | 474,896 | 143,395 | 1,236,336 | — | 1,236,336 |
| セグメント間の内部売上高 又は振替高 | 4,297 | 2,549 | 5,358 | 12,205 | △ 12,205 | — |
| 計 | 622,342 | 477,446 | 148,754 | 1,248,542 | △ 12,205 | 1,236,336 |
| セグメント利益 | 46,693 | 31,783 | 14,991 | 93,468 | △ 16,940 | 76,527 |

当中間連結会計期間(自 2016年1月1日 至 2016年6月30日)

(単位:百万円)

| | 飲料・食品 | 酒類 | その他 | 計 | 調整額(注)1 | 中間連結損益 計算書計上額 (注)2 |
|-----------------------|---------|---------|---------|-----------|----------|--------------------------|
| 売上高 | | | | | | |
| 外部顧客への売上高 | 674,466 | 466,096 | 132,506 | 1,273,069 | — | 1,273,069 |
| セグメント間の内部売上高 又は振替高 | 4,580 | 2,453 | 5,140 | 12,175 | △ 12,175 | — |
| 計 | 679,047 | 468,550 | 137,646 | 1,285,244 | △ 12,175 | 1,273,069 |
| セグメント利益 | 49,210 | 39,458 | 16,203 | 104,873 | △ 17,595 | 87,277 |

(注) 1. セグメント利益の調整額には、セグメント間取引消去、各報告セグメントに配分していない全社費用が含まれています。全社費用は、当社において発生するグループ管理費用です。それぞれの金額は次のとおりです。

| | |
|----------------------|--------------|
| 前中間連結会計期間 | |
| セグメント利益の調整額 | △ 16,940 百万円 |
| 各報告セグメントに配分していない全社費用 | △ 16,977 百万円 |
| セグメント間取引消去 | 37 百万円 |
| 当中間連結会計期間 | |
| セグメント利益の調整額 | △ 17,595 百万円 |
| 各報告セグメントに配分していない全社費用 | △ 17,629 百万円 |
| セグメント間取引消去 | 33 百万円 |

2. セグメント利益は、中間連結損益計算書の営業利益と調整を行っています。